



兒こ雷らい也や豪傑こうけつ譚たん 上かみの卷まき  
一四し篇へん十じゅう

^13  
 3878  
 81

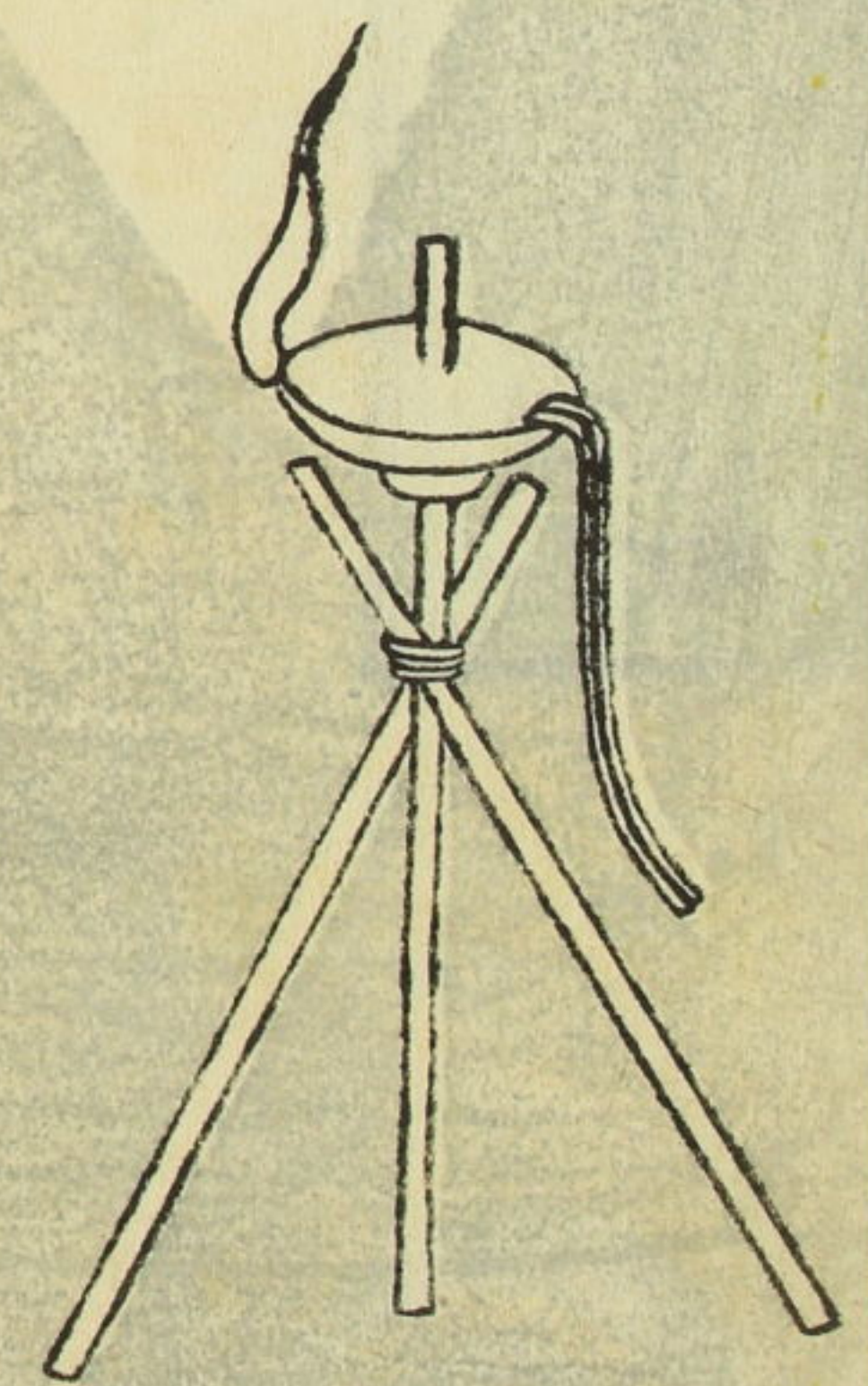


門へ13  
 號 3878  
 卷 81

兒雷也  
 豪傑譚

上卷

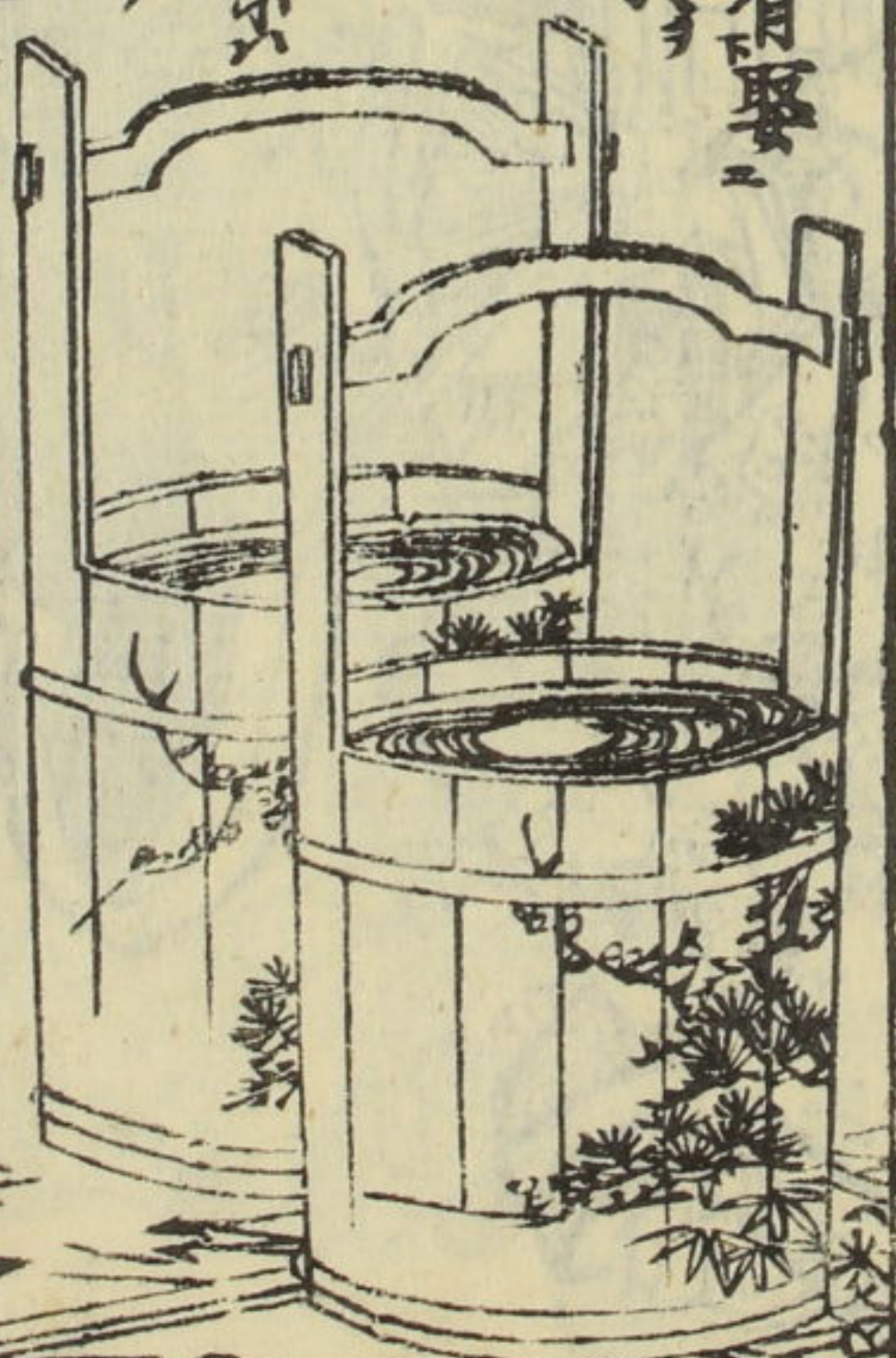
榊の亭作  
 一壽高画



泉  
 市  
 棒



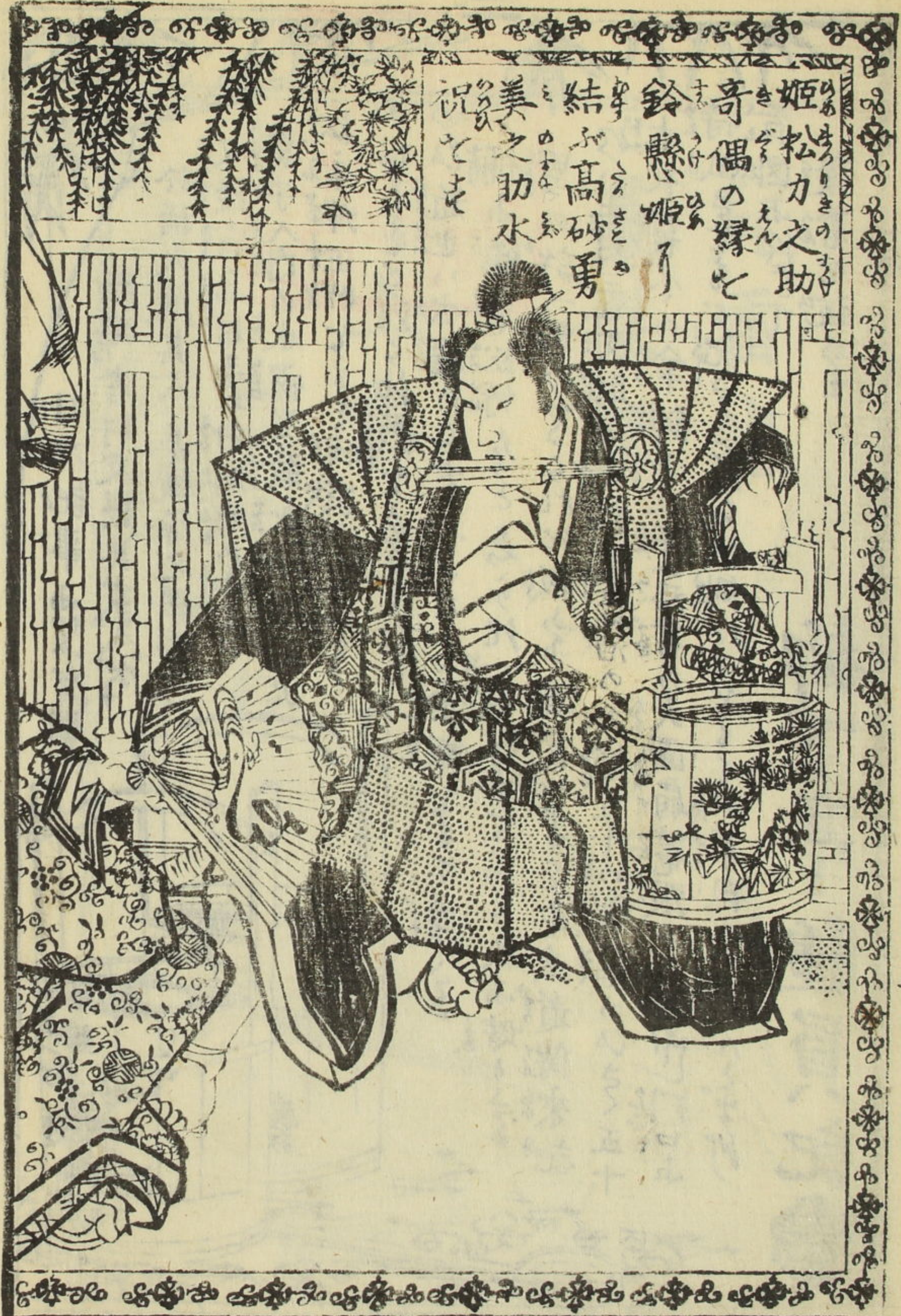
新婦者則友聚其家入水  
 於桶大灌其人是接除之謂也  
 又後言名目少白河院の中宮  
 賈子入内の水祝と載永祿新話出  
 水灌正姓とて我家の電臣  
 此戲とある一むと  
 金銀とて濃  
 酒食とては武道傳來記  
 五月十日銀箸のひさく五十  
 本衣將校の傘鉾十二本落書の大團扇箆張の立多所門口  
 持掛させると記よりこれら此例たるも此草紙の用ひんとす  
 首圖のし  
 後看と扱の



柳下亭種員記



記書也四十一



祝美結鈴奇姫  
 の之ふ高懸偶松  
 水助勇 了 之 助

月夜七段一



遊女岸川



兒雷也

大蛇丸田毎姫と山姥  
山姥一誘引と久と  
綱手が忠王家久と

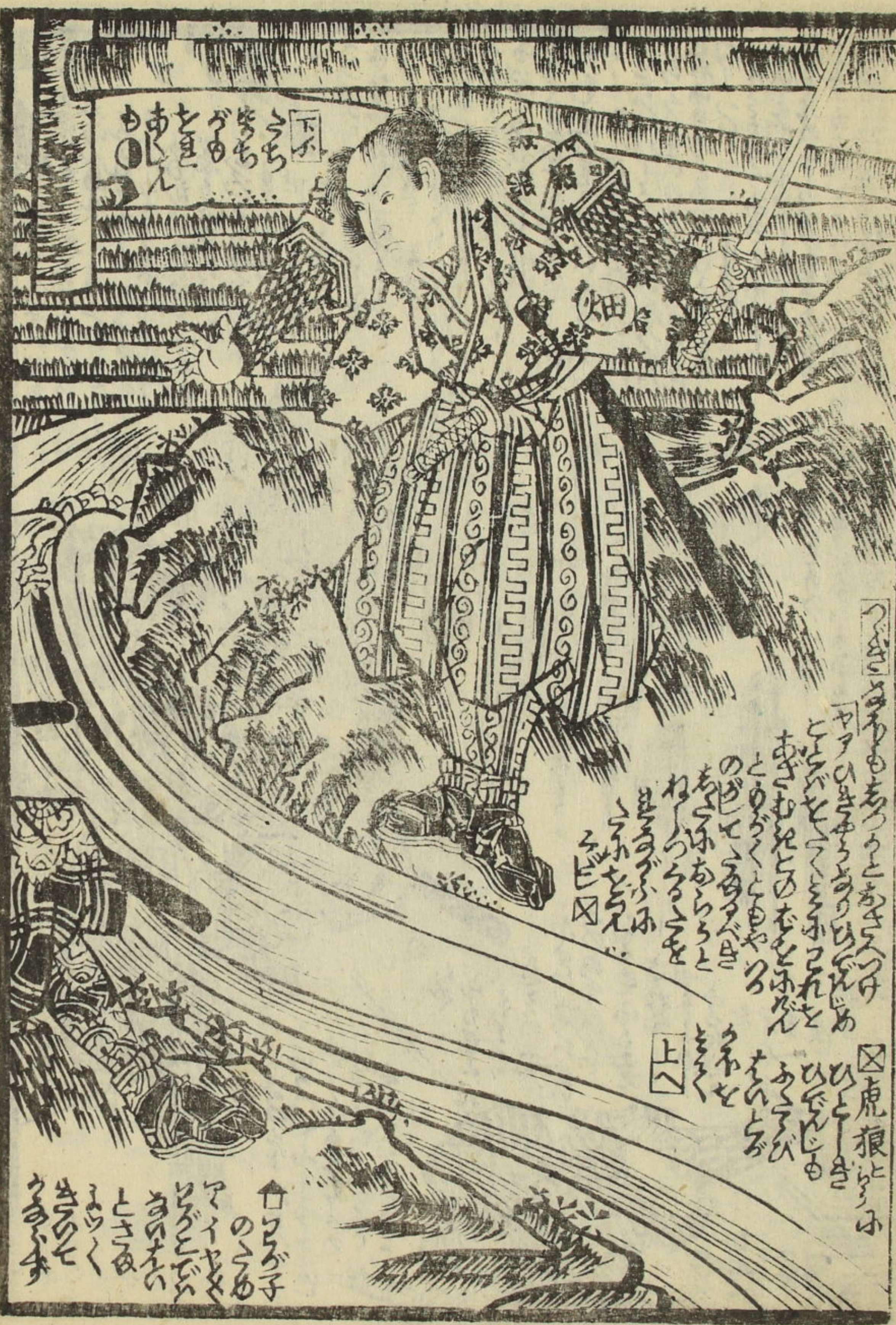
















# 種員遺稿芳幾画



一 兎雷也豪傑譚

四拾七篇

一 休草紙

拾五篇

一 風俗淺間獄

拾四篇

一 黄金水大盡盃

拾七篇

書肆  
地本  
問屋

芝 神明前

和泉屋

市兵衛

銀座四丁目

同 支店

